

Japanisch
Deutsches
Kulturinstitut

財団法人日独文化研究所

所内報

Informationen Innerhalb des Japanisch Deutsches Kulturinstitut

2013年度
第2号

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町 19-3

ご挨拶

日独文化研究所 理事長 木村 敏

平成24年(2012年)7月に98歳の天寿を全うされた前理事長岡本道雄先生の跡を承けて、昨年(2013年)5月から日独文化研究所理事長の重責をお引き受けすることになりました。

本研究所は昭和31年(1956年)に創設され、50有余年の長きにわたって日独両国の文化交流に尽力してきたという輝かしい歴史を有しています。最近の約20年は、岡本先生の強いご意向もあって、とくに哲学的思索の分野での日独交流に力を注いでまいりました。それも、単なる一研究領域としての哲学研究ではなく、「21世紀人類の未来と近代の科学技術文明」という壮大なテーマを掲げて、その趣旨に沿ったシンポジウムや講座など各種の催しを開催し、一般市民との交換にも尽力しております。また6年前からは、その趣旨に沿った研究論文や対談を広く世に問う、市販の年報『文明と哲学』を発刊してまいりました。

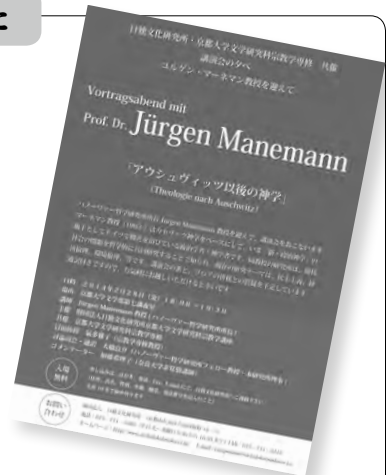
今般、従来の財団法人の体制から、より広い視野のもとで活動の公益性を重視する公益法人への組織替えを図って、現在その申請中であります。関係者各位におかせられては、この申請が認可されて新しい法人が発足いたしました後も、この研究所の発足以来の趣旨を踏まえて、従前にも増したご協力のほどをお願い申し上げたいと存じます。

平成26年1月

学術交流関連事業をはじめました

平成24年度より日独間の学術交流を本格的に支援することになりました。個別のプログラムに対して講演料や旅費を支援するかたちです。哲学を中心としながら、現代的な課題も視野に入れ、今後の人材育成も目標としています。平成24年度には高田篤理事の世話で法学系において、国内の学会と連携して、ドイツから学者を招待しました。また、これにともない、若手研究者の交流会開催を支援しました。特に若手の手当については、既存の仕組みでは対応できないため、大変喜ばれました。

平成25年度には本研究所大橋良介理事がフェロー教授を務めているハノーヴァー哲学研究所との連携をおこないます。独立系の研究所として現代社会の問題を哲学的に共同研究することで知られており、現在の研究テーマには、民主主義、経済倫理、環境倫理等があります。同研究所の学者を招待して、ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川および京都大学と連携した講演会を開催します。将来的には日本の若手研究者を派遣することも検討しています。



講演会のタベ



学術交流関連事業をはじめました

学術交流関連事業 平成24年度の活動報告

◎クリストフ・メラース教授講演会

「権力分立理論について—ケルゼン理論を顧慮しての理論的・比較的考察」

クリストフ・メラース氏（ドイツ・フンボルト大学教授）

平成25年2月23日（土）大阪大学待兼山会館（大阪大学法学研究科・高等司法研究科と共催）

◎クリストフ・シェーンベルガー教授講演会

「ブント (Bund)としての欧州連合」

クリストフ・シェーンベルガー氏（ドイツ・コンスタンツ大学教授）（通訳；大西楠テア氏）

平成25年3月9日（土）大阪大学中之島センター（大阪大学法学研究科・高等司法研究科と共催）

◎ドイツ法若手研究者交流会

平成25年3月5日（火）東京大学山上会館

哲学講座を再スタート

日独文化研究所の活動の中心柱の一つであった「哲学講座」は、ゲーテ・インスティトゥートの改築に伴ってしばらく休講となっていたが、このたび、約2年の間隔を経て再開した。休止中にも事務局には少なからぬ問い合わせがあったと聞き、それを裏づけるように、再開後の講座には、往年のファンをはじめ文字通り老若男女の参加者がおおぜい足を運んだ。

初春、初夏、初秋各講座の連続テーマを、「ハイデッガー」、「知の諸層」、「西田哲学」と設定したことに応じて、初回となった2012年初秋講座は谷徹理事が「ハ

イデッガーとフッサール」、続く2013年初春講座は立命館大学名誉教授・日下部吉信氏が「アリストテレス」、そして初夏講座は京都産業大学教授・森哲郎氏が「西田哲学の世界」と、それぞれ専門の立場から充実した講座を披露した。入門と応用を併せ持つような内容に対して、聴講者からは積極的且つ本格的な質問やコメントが寄せられ、再スタートした哲学講座は、この一巡によって再び本研究所の中心事業として軌道に乗ったと言えるだろう。

平成24年度哲学講座開催報告

◎初秋講座 ハイデッガー（1）「ハイデッガーとフッサール」全6回

講師 谷 徹（本研究所理事・立命館大学教授）

日時 平成24年 9月29日（土）第1回・第2回

平成24年10月13日（土）第3回・第4回

平成24年10月20日（土）第5回・第6回

◎初春講座 知の諸層（1）「アリストテレス講義・6講」

講師 日下部 吉信（立命館大学名誉教授）

日時 平成25年2月 2日（土）第1回

平成25年2月 9日（土）第2回

平成25年2月16日（土）第3回

平成25年2月23日（土）第4回

平成25年3月 2日（土）第5回

平成25年3月 9日（土）第6回



日下部 吉信氏

哲学講座の様子



Der Brief
von
Deutschland**ドイツだより (2)**
Der Brief von Deutschland**ドイツ哲学のゆくえ**本研究所理事・ハノーヴァー哲学研究所フェロー教授
大橋 良介

「ドイツ哲学会」という学会がある。3年ごとに各地で大会が開催され、今年はミュンスター大学で9月末に予定されている。「日本哲学会」の場合は毎年開催され、首都圏の大学と地方の大学とが1年ごとに交互に場所を提供するから、頻度においても開催場所の選定に関しても、日独の地理的・文化的性格のちがいがあらわれる。後者について言えば、ドイツでは16の州都と連邦首都ベルリンとのあいだに、経済的にも文化的にも格差というものがあるが、日本は経済も文化も東京一極集中型という違いが、反映する。

「3年に一度」と「1年に一度」という頻度の違いも、偶然とはいええない。日本の哲学界では学問史の事情からして、欧米で発信される哲学情報の受信が大きな比重を占めざるを得ない。情報受信は、絶えずこまめにする必要があります。ちなみに言えば、その反面として、発信する部分は小さくなる。日本哲学会の過去10年の大会テーマのなかで、「日本哲学」が取り上げられ

たのは10年のあいだに1回だけ(2006年の東北大学での大会)で、そこでの議論が欧米哲学界に何かを発信したという痕跡は、ついぞ聞いていない。他方で3年に一度のドイツ哲学会では、「ドイツ哲学」は自明的に諸発表の内実を形成し、カント、ヘーゲル、フッサール、ハイデッガー、等々の研究に、何らかの新視点を発信しつつける。その場合、3年という間隔は、新視点の醸成という観点で、短いとは言っても長すぎることはない。

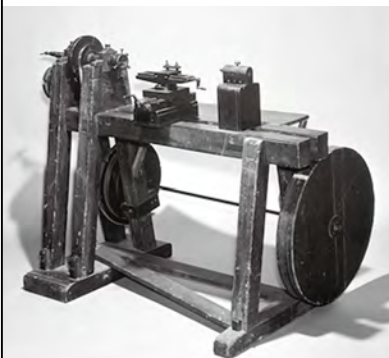
ただ、ドイツ哲学が自信に満ちて情報を発信しつづけているかといえば、胸を張ってイエスと答える人は、もうドイツ国内でもないだろう。この30年のあいだに、哲学事情は一変してしまった。米英系の分析哲学が、大学のポストや授業題目、そして一般の研究発表数において、伝統的なドイツ哲学を圧倒しつづけている。使用言語に関しても、カント、ヘーゲル、ハイデッガー、等について英語でなされる発表を、ドイツの研究者たちが真面目に聴くという図式は、可笑しいのが珍しくなくなっている。

さてそのドイツ哲学会の今年度ミュンスター大会で、全日程5日のうち1日の全体講演(Hauptvortrag)を、依頼されてしまった。会長のM・クヴァンテ教授に依頼の理由を尋ねたら、「ドイツ哲学の骨頂を日本哲学の視点から語ってほしい」という答えが、もどってきた。ドイツ哲学はどこへ行くのかという問いが、ブーメランのようにこちらに戻ってきた。いま大いに困惑し、かつ緊張している。

賛助会員の紹介(2)**島津製作所 創業記念資料館**

島津製作所の創業者島津源蔵は、ここ木屋町二条に居を構え、1875年に教育用理化学器械の製造を始めます。その源蔵に大きな影響を与えたのは、ドイツ人のGottfried Wagenerでした。ワグネルは1878年、京都府が産業振興政策の一貫として開設した舎密局(理化学研究所)に招かれます。陶磁器や七宝の改良に力を尽くし、京都だけでなく日本の化学工業における多大な功績は周知のとおりです。源蔵は舎密局に出入りし、理化学器械の製作においてワグネルの指導を

受けたと考えられています。資料館に展示しているドイツ製の足踏式木製旋盤は、源蔵がワグネルから譲り受けたものとされており、両者の親密な関係を今に伝えています。



ドイツ製足踏式木製旋盤

またこの地は、レントゲン博士がX線を発見したわずか11か月後にX線写真撮影に成功した場所でもあります。当時、旧制第三高等学校の教授であった村岡範為博士の指導のもと、二代目源蔵が製作した感応起電機を用いてX線を発生させました。写真撮影は東京、京都いずれにおいても成功しましたが、その後も引続き実験を繰り返し、X線装置の製品化まで漕ぎ着けたのは当社のみであり、現在も主力事業の一つとなっています。

このような欧米の近代科学の摂取は明治期の日本において国家的課題であり、先進的な製品の国産化を目指すことで世界と並ぶ独自の技術力を育てていきました。こうしたわが国近代科学技術発展の足跡を島津製作所の歴史とともにご覧いただければと思います。



〒604-0921
京都市中京区木屋町二条南
電話 (075) 255-0980
FAX (075) 255-0985



平成24年度の報告

遅れていた年報の刊行と哲学講座の再開、新たに始まった学術交流の支援により、昨年度に比べて拡大した事業となりました。

◎事業報告

1. 第22回公開シンポジウムの開催

連続テーマ「生と死」の4回目

日時：平成25年2月10日（日）

場所：京大大学人間・環境学研究所棟地下大講義室

基調講演

● 関西医科大学名誉教授・洛西ニュータウン病院名誉院長・心療内科部長

中井吉英「一臨床医の生死観」

● 兵庫県立大学教授 丸橋裕

「生命のうちに死—V・v・ヴァイツゼカーの〈医学的人間学〉の可能性」

約110名の参加をえて、パネル討論をおこない、活発な討論がなされました。

2. 「文明と哲学」第4号・第5号刊行

出版社をこぶし書房に変更して平成23年度年報を発行しました。なお、平成24年度年報「文明と哲学」第5号も刊行いたしました。

3. 哲学講座再開

しばらくお休みしていましたが、平成24年9月よりゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川小ホールにて再開しました。（詳細は2頁参照）

◎初秋講座 谷徹理事を講師に「ハイデッガー（1）・ハイデッガーとフッサール」全6回（平成24年9月から10月）をおこない、毎回約30名の受講生を迎えました。

◎初春講座 「知の諸層」第一回として、日下部吉信氏・立命館大学名誉教授を講師に「アリストテレス講義・6講」全6回（平成25年2月から3月）をおこない、毎回約20名の受講生を迎えました。

4. 学術交流

法学系の講演会ならびに若手研究者の交流会を支援しました。（詳細は1～2頁参照）

◎クリストフ・メラース教授講演会 平成25年2月23日（土）

◎クリストフ・シェーンベルガー教授講演会 平成25年3月9日（土）

◎ドイツ法若手研究者交流会 平成25年3月5日（火）

5. 賛助会員年次総会における講演会・音楽会の開催

日時：平成24年11月26日（月） 場所：京都全日空ホテル

● 講演会 本研究所理事・京都工芸繊維大学教授

秋富克哉「科学者の社会的責任」再考—唐木順三の遺言から—

● 音楽会 筑前琵琶の演奏 田中旭泉「壇の浦悲曲」

約70名の賛助会員にご出席いただき、交流を深めることができました。

役員の異動

1. 常務理事の選任 木村 敏 氏 (平成24年5月21日付)

2. 理事長の選任 木村 敏 氏 (平成25年2月28日付)

3. 理事の退任 アンドレアス・シーコーファ氏 (平成24年5月21日付)

岡本 道雄 氏 (平成24年7月24日付)

4. 理事の新任 マルクス・ヘルニヒ 氏 (平成24年5月22日付)

5. 理事の再任 阿部 光幸 氏 (平成24年5月22日付)

西川 伸一 氏 (平成24年5月22日付)

稲盛 和夫 氏 (平成25年3月27日付)

木村 敏 氏 (平成25年3月27日付)

千 玄室 氏 (平成25年3月27日付)

山岡 淳男 氏 (平成25年3月27日付)

6. 監事の退任 杏抜 元清 氏 (平成24年5月21日付)

7. 監事の新任 道田 正信 氏 (平成24年5月22日付)

8. 評議員の再任 山邊 建 氏 (平成24年6月9日付)

井村 裕夫 氏 (平成25年3月1日付)

長尾 真 氏 (平成25年3月1日付)

理事会・評議員会の開催

平成24年5月21日、芝蘭会館別館地下会議室にて午後2時より理事会、午後3時より評議員会を開催し、次の議案について審議可決しました。

(理事会)

議案1. 常務理事の選任（木村敏氏）について

議案2. 平成23年度事業報告並びに同収支決算について

議案3. 平成24年度事業計画（案）並びに同収支予算（案）について

議案4. 評議員の選任（山邊建氏再任）について

議案5. 公益法人の認定申請について

議案6. 規程について 会計処理規程、資金運用管理基準、事務処理規則、公印取扱規則、役員・評議員及び職員の旅費に関する規則、就業規則、賛助会員規則の新規作成、ならびに規程（学術文化基金）の改定

(評議員会)

議案1. 平成23年度事業報告並びに同収支決算について

議案2. 平成24年度事業計画（案）並びに同収支予算（案）について

議案3. 理事の選任（アンドレアス・シーコーファ氏退任、阿部光幸氏、西川伸一氏再任、マルクス・ヘルニヒ氏新任）について

議案4. 監事の選任（杏抜元清氏退任、道田正信氏新任）について

議案5. 公益法人の認定申請について

臨時理事会 平成24年10月17日、日独文化研究所にて開催し、次の議案について審議可決しました。

議案1. 岡本道雄先生お別れの会支出について

臨時理事会 平成25年2月28日、日独文化研究所にて開催し、次の議案について審議可決しました。

議案1. 理事長の選任（木村敏氏）について

議案2. 最初の評議員の選任方法及び選定委員会委員候補者について

議案3. 評議員の選任（井村裕夫氏、長尾真氏再任）について

臨時理事会・評議員会 平成25年3月26日、日独文化研究所にて開催し、次の議案について審議可決しました。

(理事会)

議案1. 平成25年度事業計画（案）並びに同収支予算（案）について

(評議員会)

議案1. 平成25年度事業計画（案）並びに同収支予算（案）について

議案2. 理事の選任（稲盛和夫氏、木村敏氏、千玄室氏、山岡淳男氏再任）について

◎財務報告

資 産					正味財産
(百万円)	基本財産	特定資産	その他 固定資産	流動資産	
202.8	173.3	7.6	15.6	6.3	202.8

収 入		支 出			
(万円)	賛助会費	その他	(万円)	事業費	管理費
595	513	82	1,082	707	375

なお、収支差額は-487万円、公益事業比率は41.5%。

平成25年度活動計画

◎事業計画

1. 第23回公開シンポジウムの開催 「ことば」シリーズ第1回

日時 平成25年12月21日 14時から17時30分

場所 ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

基調講演 高橋輝暁（立教大学名誉教授・獨協大学特任教授）

小川曉夫（関西学院大学教授）

2. 年報の刊行

「文明と哲学」第6号 平成26年3月に刊行予定です。

3. 哲学講座の開催

初夏講座 西田哲学シリーズ1「西田哲学の世界」

講 師 森哲郎（京都産業大学教授）

平成25年5月から6月 全6回

初秋講座 ハイデッガーシリーズ2「『存在と時間／有と時』を読む」

講 師 秋富克哉（本研究所理事・京都工芸繊維大学教授）

平成25年10月から11月 全6回

初春講座 知の諸層シリーズ2「現代社会を法的に哲学する」

講 師 高田篤（本研究所理事・大阪大学大学院法学研究科教授）

中山竜一（大阪大学大学院法学研究科教授）

西平等（関西大学法学部教授）

平成26年1月から3月 全6回

4. 学術交流

クリスチャン・ヴァルトホフ教授講演会 平成25年5月25日

ハノーヴァー哲学研究所所長ユルゲン・マーネマン教授講演会

平成26年2月25日「人間的なエコロジーへの途上」

共催：ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

平成26年2月28日「アウシュヴィッツ以後の神学」

共催：京都大学 文学研究科宗教学専修

◎お悔やみ

山岡淳男名誉理事長ご逝去

山岡淳男氏（ヤンマー株式会社名誉会長）が平成25年8月18日に逝去され、10月11日に大阪でお別れの会がおこなわれました。昭和38年10月から平成元年12月まで理事長を務められ、その後名誉理事長として、本研究所の運営に50年以上にわたりご尽力くださいました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◎ニュース

公益財団法人への移行申請

法改正に基づき、平成25年11月、内閣府への申請をおこないました。

編集後記 第2号の発行が遅くなりました。研究所を支えてくださった方々がおおくなりになる一方、新しい組織への展開も見えつつあります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

財団法人日独文化研究所 所内報 第2号 平成26(2014)年3月31日発行

発 行 財団法人日独文化研究所
〒606-8305 京都市左京区吉田河原町19-3
Tel. 075-771-5200 Fax. 075-771-5242
http://www.nichidokubunka.or.jp zaidan@nichidokubunka.or.jp

編集協力 文屋秋栄株式会社